「光のうちに」

～御言葉は幸せのともし火　主に身を避けるもの～　　詩編１１９編１０１～１０６

あなたの人生で幸せといえるものは何でしょうか？「これがあれば幸せ！」というものを考えてみましょう。ローマ帝国は全世界を征服したら幸せになると考えていました。それに対してギリシアの哲学者や東洋の国々はそうは考えませんでした。今の幸せや幸福感から少し落とす事、あきらめることが幸せであると考えました。自分たちよりも貧しい人と比べれば幸せだと考えることで「私たちは幸せだ！」と感じることができると考えました。どちらも正解ではありません。ある牧師がメッセージで「火事になったときに何をもってにげますか？」と質問しました。その牧師は「私は聖書を持って逃げる」と言われました。なぜなら聖書さえあればすべては解決できるからです。御言葉を実践しているとその結果、神様から豊かな恵みが注がれて繁栄するようになります。私たちクリスチャンは教会に来て繁栄を求めるのではありません。私たちが求めるのは神にある幸いです。ところが幸いを求めると、幸いな人には慈しみと恵が追ってきて、何をしても栄えるようになります。大切なことは、私たちがいつも”Back to the Bible”であればよいのです。御言葉は私たちを光のうちに導きます。でも、私たちクリスチャンは信仰生活が長くなればなるほど、このことが「わかったつもり」になってきます。聖書は私たち一人一人の様々な状況に応じて導きを与えるためにたくさんの言葉を用いて語っています。うまくいかない時、苦しい時、祈れない時、旧約時代の人がどのように神様の前に出て行ったのでしょうか。イエス様の愛を伝えようと努力していた使徒たちが、鞭に打たれ牢屋に入れられ、明日は死刑にされるというときに、どうして喜んでいられたのでしょうか。使徒パウロの書いたピリピ人への手紙４章６節～７節に「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなた方の願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべてに考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」という御言葉があります。パウロはどんな時にこの御言葉を語ったのでしょうか。パウロはエリートの家庭に生まれ、当時ユダヤを支配していたローマの市民権も持っているなど、その当時のあらゆるものを得ていた人でした。しかしパウロはそれらを「ちりあくた」だと言ってすべて捨ててイエス様を伝える人になりました。しかし、当初イエス様を信じる人々を迫害していたので信徒から嫌われ、ユダヤとローマを裏切ったので彼らからも迫害を受けました。コリント人への手紙第二にはこのように書かれています。「私の労苦は彼らよりも多く、牢に入れられたことも多く、また、むち打たれたことは数えきれず、死に直面したこともしばしばでした。ユダヤ人から三十九のむちを受けたことが五度、むちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度あり、一昼夜、海上を漂ったこともあります。幾度も旅をし、川の難、盗賊の難、同国民から受ける難、異邦人から受ける難、都市の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、労し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢え渇き、しばしば食べ物もなく、寒さに凍え、裸でいたこともありました。このような外から来ることのほかに、日々私に押しかかるすべての教会への心づかいがあります。だれかが弱くて、私が弱くない、ということがあるでしょうか。だれかがつまずいていて、私の心が激しく痛まないでおられましょうか。（Ⅱコリント 11:23 ～ 29）」

パウロは当時の人々が望むすべてを持っていて、それをすべて捨てて、この時には牢屋に入れられていました。その中でパウロはこのように言っています。

ピリピ 4:4 いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。4:5 あなたがたの寛容な心を、すべての人に知らせなさい。主は近いのです。4:6 何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。4:7 そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。4:8 最後に、兄弟たち。すべての真実なこと、すべての誉れあること、すべての正しいこと、すべてのきよいこと、すべての愛すべきこと、すべての評判の良いこと、そのほか徳と言われること、称賛に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい。4:9 あなたがたが私から学び、受け、聞き、また見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神があなたがたとともにいてくださいます。4:10 私のことを心配してくれるあなたがたの心が、今ついによみがえって来たことを、私は主にあって非常に喜んでいます。あなたがたは心にかけてはいたのですが、機会がなかったのです。4:11 乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。4:12 私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にいる道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。4:13 私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。パウロはここで「学んだ」と言っています。「だから私から学んでください」と言っています。パウロはすべてを失ったように状況の中で神様を求めて喜ぼうと決断していました。なぜでしょうか。それは、どんな境遇の中にあっても満ち足りることを学んだからでした。パウロは「私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできる」という事を知りました。私たちが歩むべき道というのは、神様の前にまっすぐである事です。そうすると神様に願わなくても神様は私たちの願いを叶えてくださるようになります。人が本来いるべき位置に居さえすれば神様は何でもできます。どのような境遇であっても、私が存在することで回りが喜んでいく事が幸せなのです。誰かと比較して、それよりも優っているから幸せだと感じるのは、神様の本来与えようとしている幸せではありません。幸せとは、神様とともに生きることで、どんなことでもできるという確信を持つことです。詩編１１９編 47 私は、あなたの仰せを喜びとします。それは私の愛するものです。48 私は私の愛するあなたの仰せに手を差し伸べ、あなたのおきてに思いを潜めましょう。49 どうか、あなたのしもべへのみことばを思い出してください。あなたは私がそれを待ち望むようになさいました。50 これこそ悩みのときの私の慰め。まことに、みことばは私を生かします。51 高ぶる者どもは、ひどく私をあざけりました。しかし私は、あなたのみおしえからそれませんでした。52 主よ。私は、あなたのとこしえからの定めを思い出し、慰めを得ました。

①神の中に帰る！！ 感謝しつつ主の門に！！

ダビデは心が神に向かない時に、体全体で「ヤダー」と叫びながら種の門に入っていきました。だから感謝しつつ主の門に、喜び歌いつつ主の大庭に入れと言われています。できない時にこのようにやらなければなりません。思い通りにならない時、感謝しましょう。ムカついているときこそ、感謝しますと宣言しましょう。そうすると種の大庭に入ります。そこには洗盤があり、自分の顔がそこに写っているのを見ることができます。そうすると自分がどんな顔をしているのかが解ります。そこでどんな顔をしているのかを見て、我に返ることができます。自分の状態が悪い時にこそ、神様の前に出て祈りましょう。そうすれば元に戻ります。

②１にも２にも御言葉 目に見えぬ神の啓示

聖書を読むことが私たちの人生の命運を分けることになります。だから聖書を読む時間を持ちましょう。悩んでいるときに誰かに話す時間があったら聖書を開いて読みましょう。

私たちは悩みを人に話しても解決しません。神様の前にまっすぐに出る以外に解決することはありません。神様はまっすぐにあなたと関わりたいと思っておられます。そして身に見えぬ神の啓示を与えたいのです。聖書の言葉はあなたに光を灯してくれます。あなたが間違っていたことを教え、正しくできていたことは評価し、努力したことに報いられます。そして悲しかったことに慰めが与えられて、苦しかったことに解決が起こります。これが奇跡なのです。

③幸せへの決断は感謝　地平線は 足元に！！　満ち足りることを学ぶ

決断して感謝すると主の大庭に入っていき、喜びがあふれて何をしても栄えるようになり、御言葉があなたの中で輝いてあなたの暗闇を照らし、あなたを至聖所にいざないます。至聖所に行くと主の臨在の中であなたは変わっていきます。

聖書を開き、神様の前に向き合うことを続けていきましょう。１年たつと大きく変わっています。神様と向き合って祈ると祝福されます。「今の時のいろいろの苦しみは、将来私たちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足りないものと私は考えます。（ローマ８章 18 節）」神様はあなたを通して素晴らしい御業を用意しておられます。しかし、あなたが粗削りなままでは良くありません。あなたが美しく輝くクリスチャンになれば何をしても栄えます。主よ私たちを幸いなるものへと導いてください。心の貧しいものは幸いです。ですから霊的乞食のように神様を求めていきましょう。その糧は聖書にあります。聖書の御言葉はあなたを幸せにします。この御言葉に目を向けていきましょう。あなたが願う事すべてを神様はご存知です。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。御言葉をもって悩みを持った人と関わりましょう。人間的な方法で関わると、その人は滅びます。何をするにも神の御言葉によって進んでいきましょう。ダビデもダニエルも御言葉によって困難を乗り越えてきました。聖書の先人たちが皆そのようにしてきています。それは今日まで続いています。ダビデに仲間がいたように、またダニエルにも友がいたように、私たちにも神の家族がいます。どんなに困難であっても、決してそのままでは終わりません。苦難とともに脱出の道を備える神様がおられます。御言葉に立って今の苦難から脱出しましょう。そして私たちを通して日本の弱った教会が変えられ、その教会によって私たちも変えられていきます。イエス様も愛を流す決断をしましょう。パウロのように自らの基準を置き換えることができるように。

（要約者：日名　洋）

（８月６日）